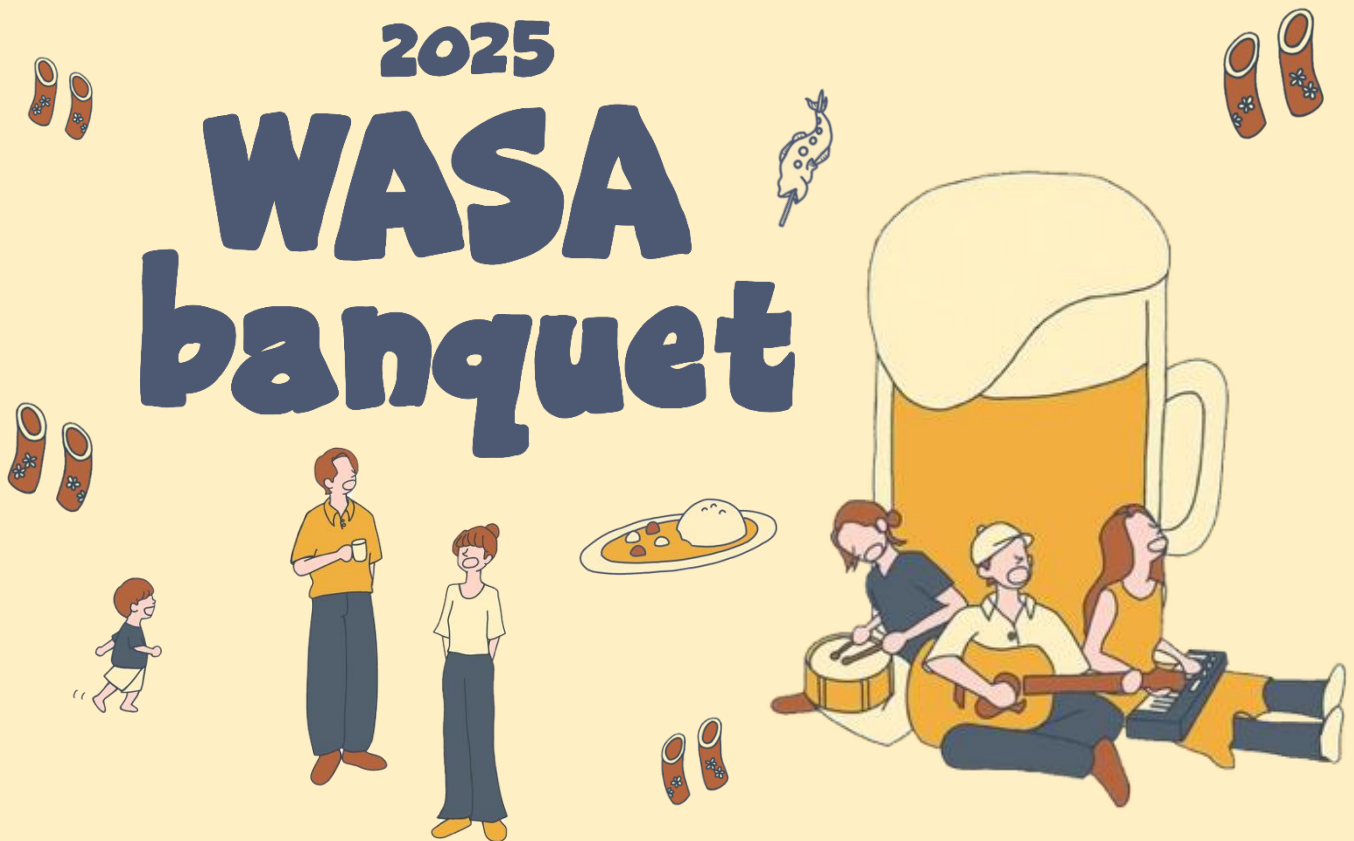


2025年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名： まちもゆ

活動名： WASA banquet



★ 団体紹介（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

まちもゆとは、大朝出身の大学生 6 人組です。大朝で開催する野外音楽ライブ WASA banquet (わさばんけつ) の企画運営のために結成しました。

WASA banquet は 2025 年で 3 度目の開催となります。

開催のきっかけは、共同代表である大学生 2 人が進学をきっかけに広島を離れ、東京や福岡で 1 年間学生生活を過ごす中で「大朝の良さを誰かに共有したい」という気持ちが芽生えたことでした。それぞれの進学先でできた友人に地元を紹介したいと思っても、出てくる誘い文句は「自然が豊か」「空気と水が綺麗でお米が美味しい」「人があたたかい」など、どこの田舎にも共通するような言葉しか出てきません。しかし、大朝の綺麗な場所や面白い人、美味しいご飯を伝えるためには、訪れてもらう必要があります。そこで、大朝を訪れる目的として WASA banquet が誕生しました。



音楽は生まれや年齢、言語を超えて楽しめるものです。時には言葉よりも先に人を繋ぐものにもなります。大朝の人と大朝の人、大朝の人と地域外から訪れた人、初めてきた人など、いろんな人が宴のように食事やお酒を楽しみ、音楽によって口ずさむ、そんな空間を目指して企画が始まりました。

2人で企画が始まったものの、準備や片付けには人手が必要でした。幼馴染に想いを話して相談すると20名もの友人が手伝ってくれることになりました。

3度目のWASA banquet 開催となる時、2人の思いに共感してくれた4名が加わりまちもゆという団体になりました。

メンバーの6人は、学業や仕事で町外、県外に出ています。オンラインで日々話し合いをしながら、帰省できるタイミングを合わせて2~3ヶ月に一回対面で準備を進めてきました。

大朝や北広島町のいろんな方に支えていただきながら活動を続けられている団体です。

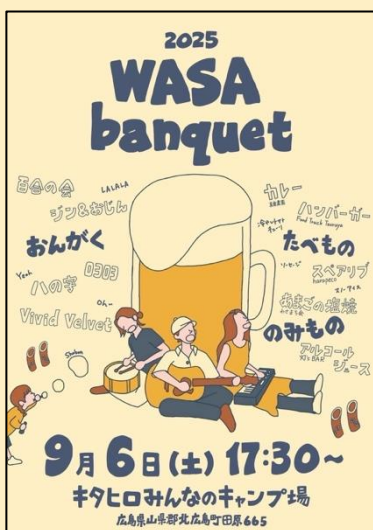
____WASA banquet とは____

わさの星空の下で過ごす一夜だけの宴。裸電球の灯る会場には小さなステージがあります。バンドが奏でる音楽に美味しいご飯とお酒。ひろーいシバフにくるぶしがつかるオガワ。わさの自然の中で子どもたちが走り回る。おとなも子どもの頃のように笑い、喋る。WASA banquet に集う誰もがはしゃげる空間。

____ まちもゆ とは____

はじめは、自分の”好き”を伝えたいという思いから集まった大学生2人組。地元が好き、音楽が好き、人が集まる空間が好き。みのまるという名前で活動して三年が経とうとしていた時に、”好き”に共感してくれた幼馴染が仲間になってくれました。今は、6人でああこうだ話ながら企画をしてくれています。誰かの心の片隅に残る思い出をつくれたら嬉しいです。私たちのやりたいでやっていることが、誰かの”好き”にヒットしたり、地域の何かに貢献したりできていたらいいなと思います。

★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）



実施日:2025年9月6日(土)

場所:キタヒロみんなのキャンプ場(広島県山県郡北広島町田原 665)

参加人数: 来場者 300人以上

WASA banquet には、5組のバンド出演者と5つの飲食出店者、古着物リメイク活動やエコマーケットをされている方、本屋さんなど団体や雑貨・本の出店者が集まりました。

3年連続出演していただいて北広島町や活動している「百合の会 feat 歌う介護士」、隣町の「ジン&おじんと仲間たち」や、北広島町で活動されているカバー曲を歌う「0303」、福岡で活躍されている「八の字」、東京の大学生バンド「Vivid Velvet」と、地域内外問わず多くの方にステージに立っていただきました。

WASA banquet の最大の特徴は、セッションの時間があ流ことです。バンドの垣根を越えて、出演者と聞いて

いる人という垣根を越えて、だれもがステージに立てる時間です。その場で仲間を集めてセッションを始めてもよし、1人で演奏をしても良いのです。音楽を介してみんなが自然と笑顔になる、つながる時間です。



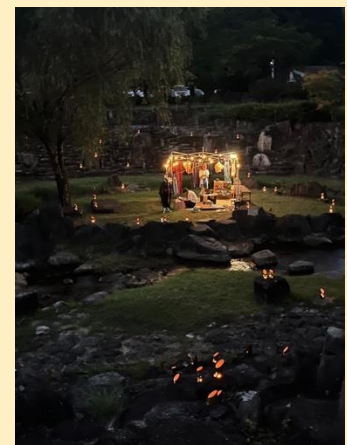
飲食出店者は、全て北広島町で営まれている方々に集まっていただきました。「わさまち会」さんからはアマゴの塩焼き、「Food Truck Tsuruya」さんからは大朝の酒蔵のどぶろくをつかったハンバーガー、「harapeco」さんからはスペアリブ、「真倉カレー」さんからはビーガンカレー、大朝の酒屋さん「灯's BAR」からはお酒や飲み物を提供していただきました。3年連続出店していただいている事業者さんも多く、来場者の皆さんからも毎年好評いただいています。飲食物を提供するために使われる器はリユース食器を使用しています。広島で活動されている From grassroots さんから3年連続でレンタルをさせていただきました。



また、雑貨屋や本屋さんの出店もしていただきました。大朝で活動されている「100プロ」さんからは活動の一つであるエコマーケットを、同じく大朝で活動されている「松浦村塾」さんには着物のリメイク品を、そしてひよんなご縁で福岡県糸島市の本屋さんに出品していただきました。

昨年までの WASA banquet とは大きく違うところが3つあります。

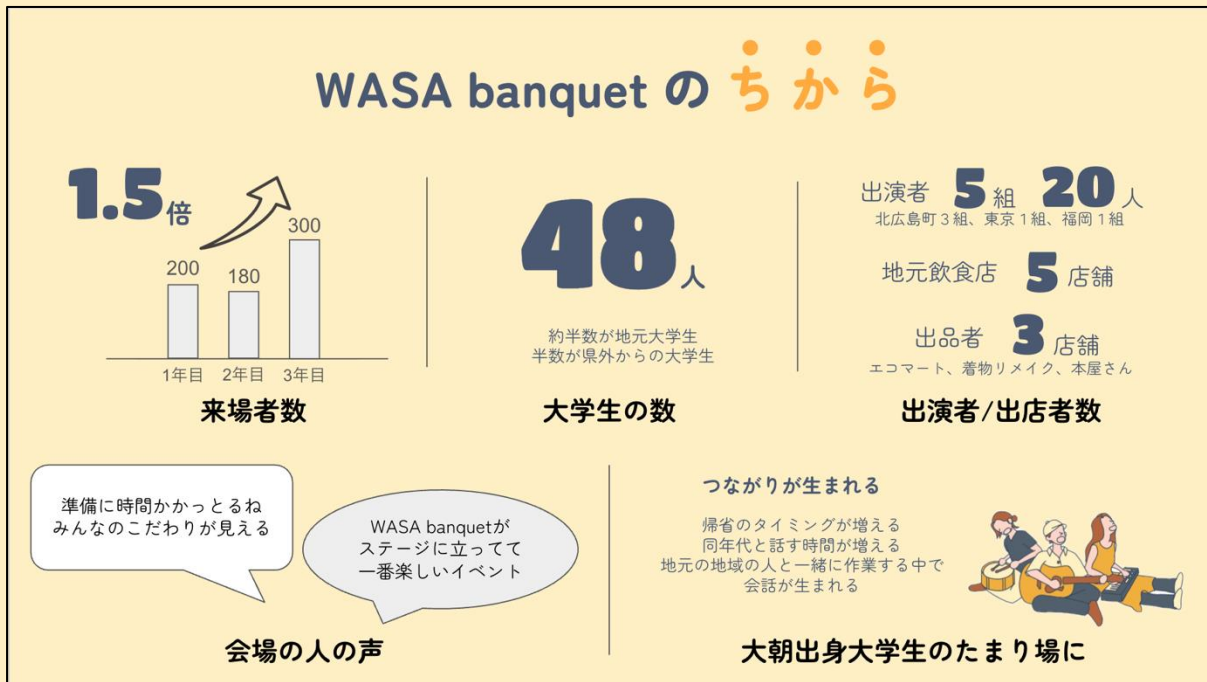
一つ目は、会場の机や椅子、装飾品を手作りや北広島町内の事業者さんのお力を借りて作ったことです。会場の丸いローテーブルは、北広島町の「カトウ家具工芸」さんに作成していただきました。制作途中に出た大鋸屑をもらい、装飾の一つであるボンボンも製作しました。椅子も自分たちで作り、裸電球と共に飾った着物のカーテンは「松浦村塾」さんからいただいた使えなくなった着物から作りました。机と椅子と共に会場に敷かれたござは、畳屋さんからももらった使えなくなったものです。地域の人の力をお借りして、あるものを最大限に活用した手作りの会場空間です。



二つ目は、オガワゾーンを作ったことです。これまで、活用しきれていなかった会場の小川をみんなが立ち入れられるように仕掛けを作りました。飲食以外の出店者さんを小川のなかの浮島に配置し、暗がりの中で灯る外だけど部屋のような空間を作りました。

三つ目は、スタンプラリーです。子供たちが楽しめるように、各店舗で食事をするスタンプが集められる仕組みをつくりました。全部集めるとくじを引くことができ、当たると米袋で作った WASA banquet バックがあたるというものです。子供たちだけでなく、多くの大人にも楽しんでいただけたものになりました。

★ 実施に伴う効果 (どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。)



大朝は人口約 3000 人の町で、中学や高校の卒業を機に地域を離れる 10 代が多いです。そんな中、大朝出身の大学生が戻ってきたり、県外の大学生が訪れたり合計 48 人が大朝に訪れました。

進学や就職の関係で外に出ることは悪いことではありません。それを機に、登下校の時に挨拶をしていた地域の人や商店の人、友人の家族など関係が遠くなってしまうことが問題だと感じています。一年に一度は戻ってくる人やしばらくして地元に戻ろうと決意をした人、実家に帰るだけでその人の仕事も遊ぶ場所もない時、疎外感や本当に地元なのかと感じてしまう瞬間があるかもしれません。地元に戻ることがネガティブにならないように、一年のうちの何度かは地域の人と関わる、同級生と会う時間が必要だと思います。「会う」ことは、案外簡単に帰省の時にバスを利用したり、商店を利用したり、特定の友人に声をかけて会うことができます。

WASA banquet では、イベントを開催するという同じゴールがある中で同年代や地域の人と準備を進めます。作業をしながらだと自然と「今どんなことをしてるの?」「実は、地域でこんなことしたい」など、他愛のない話から将来の漠然とした不安や、実現可能かわからないけど持っている夢、意外とみんな地元に戻りたいということ、などが出てきました。みんなが帰るなら私も帰りたいたいと言ったような話も出てきました。地域の人からは、小学校の生徒が減ってきて学校が合併した、あそこにお店がなくなったけどあっちにはお店ができた、など地域の変化や課題の話が出てきました。何気ない、意図しない意見交換が、誰かの人生や地域のを変えることにつながるかもしれません。こういった瞬間瞬間を生み出したのは WASA banquet を大学生が企画したからだと思います。もちろん時間が経てば、運営メンバーの年齢も高くなり WASA banquet で生み出される会話も変化していくことでしょう。その時の大学生を巻き込むことは難しいかもしれませんが、WASA banquet に共感してくれた誰かが別のイベントや全く別の形で、地域と若者をつなぐ何かを生み出してくれるかもしれません。若者の転出率ワースト一位である広島に現状に、変化をもたらす何かは WASA banquet を通して見えてきたと感じています。

WASA banquet は、まちもゆの代表者が小学生の時にみたイベントからインスピレーションを受けています。それは地域の人が開催した毎年恒例の祭りや新しい企画などのさまざまなイベントです。同じイベントでなくても、全く新しい形でも、バトンが繋がれていき、人と人をつなぐまちづくりとなっていくと信じています。

★ 苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など

オンラインでの活動には苦勞しました。手軽にいつでもどこでも繋がれるのはとても良いことです。しかし、熱量が伝わりづらかったり、いつでもできるから日程調節や話し合いの内容が蔑ろになったりすることもありました。また、近くにいないからこそ互いの大学の状況やスケジュール感が掴めないということもありました。

また、団体メンバーをいかに巻き込むのか、地域の人とどのように連携していくのか、悩みながらわかったこともありました。代表は柱として立っておく必要があり、方針を示し指揮を高めたり指示を出したりしてみんなのフォローやカバーにも回る必要があります。いかに、「〇〇をかわりにしてくれないか」という依頼の形ではなく「一緒にこれをしてくれないか」という、描くビジョンや課題を共有できるかが必要だと感じました。地域の人に協力をお願いをするときも、学生だからお願いできている、お金を渡してお願いしている、というのが今の状況です。もちろん依頼もお金も大事ですが、こんなことをやりたいというビジョンを伝え共感して地域の人もやりたいと思うものをつくり上げるかが大事なのだと気づきました。まちもゆは”好き”という思いに共感してくれた幼馴染がいたことで始まり、WASA banquet を継続することができています。三年経っていくにつれてお金で済ませていく部分もできてしまいました。初心に帰ってバランスを取り持つことを今後実践していきたいです。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

若者×ツナグバでは、WASA banquet という活動だけをする私たちにとって、たくさんの交流の機会をいただきました。広島を離れているメンバーが多い中で、「大朝」「進学/就職先」でしか作れない交流を広げていただきました。志すものや解決したい課題、団体の目的は違えど、だからこそ刺激のある学びの多い交流ができました。また、資金のない私たちにとって助成金をいただけたことで活動の幅が広がりました。

大変恐縮なのですが、要望としては県外からの交通費もいただけると幸いです。

採択された団体同士での交流に参加できないメンバーもいました。広島県、山口県で活動されている方を対象にされているので当然だとは思いますが、私たちのように県外から広島県、山口県を盛り上げたり課題の解決をされたりしている団体もいらっしゃると思います。その方達にも、私たちがいただいた素敵な機会が訪れますことを願っております。

サポートメンバーの皆さん、一年間のサポート、そして会場に足を運んでいただき本当にありがとうございました。